

2022 AC

1st. Celebrate Sukkot

原語で味わう創世記第1章

集中特別講座 10/9~16

13日(夜) No.9

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

①ヨハネの福音書5章39節

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証ししているものです。

【新改訳2017】

②イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

※聖書のシナリオライターは時間と空間に支配されない永遠の神です。シナリオが歴史の中に突入する時、その初めと終わりが規定されることは当然のことです。

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

③イザヤ書34章16節

【主】の書物を調べて読め。
これらのもののうち、どれも失われていない。
それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。
それは、主の口がこれを命じ、
主の御霊がこれらを集めたからである。

※「自分の伴侶」にたとえられているのは、神のみことばの証言が必ず伴侶のように置かれているということの意味します。例えば、「千年」「十四万四千人」など。

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

●創世記1章に関する注解書は多く書かれていますが、その多くが宇宙(地球)の始まりと考えています。しかしアシュレークラスでは、創世記1章を「**神の永遠のご計画の全貌が啓示されている章**」という視点で学んで行きます。

【新改訳2017】ヘブル人への手紙 4章12節

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、**たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。**

●私たちが持っている「理解の型紙」(この世の知恵、常識、教理)という眼鏡を外して、霊を働かせることが不可欠です(Ⅱコリ5:16, 3:6)。私たちの霊の目が開かれるように「シエーム・イエシュア」と呼びつつ、学んで行きたいと思います。

1. 今回のテキスト ①

●今回は第五日、「生き物」の創造とそれに対する神の祝福に注目したいと思います。

【新改訳2017】創世記1章20～23節

20 神は仰せられた。

「水には**生き物**が群がれ。**鳥**は地の上、天の大空を飛べ。」

21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての**生き物**を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに**創造された**。神はそれを良しと見られた。

22 神はそれらを祝福して、「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ」と仰せられた。

23 夕があり、朝があった。第五日。

●ここでの「生き物」とは「水の生き物」と「翼のある鳥」です。これらが神によって「創造された」(אָפֶּטֶר)のです。

1. 今回のテキスト ②

● 20～21節には新しい語彙が七つ登場します。

- ① 「生き物」 (「ネフェシュ・ハツヤー」 נִפְשׁוֹת וְחַיִּים)
- ② 「海の巨獣」 (「タンニーニム」 תַּנִּינִים) 単数は「タンニーン」 (תַּנִּין)
- ③ 「群がる」 (「シャーラツ」 שָׂרָץ) 「群がるもの」 (「シエレツ」 שָׂרָץ)
- ④ 「うごめく」 (「ラーマス」 שָׂמַם)
- ⑤ 「鳥」 (「オーフ」 עוֹף)
- ⑥ 「飛ぶ」 (「ウーフ」 עוֹף)
- ⑦ 「翼」 (「カーナーフ」 כַּנָּף)

● 11節にも登場した「種類ごとに」 (「レミーン」 מִיְּמִין)があります。これは生物学的な分類ではなく、レビ記11章にある「きよいものと汚れたもの」の区別を意味する語彙です(例:「ひれや鱗」があるかないか)。

2. 生けるもの(ネフェシュ・ハッヤー)の創造

●「ネフェシュ・ハッヤー」(נֶפֶשׁ חַיָּה)は「生き物」という意味で、「息をするもの、呼吸するもの」を意味します。つまり、息をしなくなると死んでしまう存在です。海に住むもの、空を飛ぶ鳥、地の生き物、家畜、野の獣、地を這うもの、そして人間も「ネフェシュ・ハッヤー」なのです。

●このテキストで注目すべきことは、1章1節で使われた「創造された」(בָּרָא)が、21節の「水の生き物と翼のある鳥」にも(27節の「人」にも)使われていることです。ちなみに、「実を結ぶ木(果樹)」(11, 12節)「光る物」(16節)「地の生き物」(25節)の場合には「造る」を意味する「アサー」(אָסַר)という動詞(分詞)が使われています。この違いは一体何を意味するのでしょうか。ひとつ言えることは、神が創造した(「バーラー」בָּרָא)もの、つまり「水の生き物と翼のある鳥」と「人」に対しては、神が「生めよ、増えよ、満ちよ」(22, 28節)と祝福されているという点です。

3. 「水にうごめく生き物」の創造 ①

●神は、水と水の間を分けるようにして大空を造り、その大空を天と名づけ、天の上の水と天の下の水に分けられました。天の下の水は一つ所に集められて「海」(יָם)とされ、「乾いた所」(בְּשֵׂט)と分けられました。その「乾いた所」は「地」(אֶרֶץ)と名づけられ、その「乾いた所」を歩いた者たちこそイスラエルの民です。一方「海」はイスラエルの民に敵対する諸国の民を表しています。神は海の「生き物」すなわち「海の巨獣と、群がりうごめく生き物」、そして地には「天の大空を飛ぶ翼のある鳥」を創造されました。

(1) 「海の巨獣」

●「タンニーニム」(תַּנִּינִים)とは「タンニーン」(תַּנִּינַיִם)の複数形。「タンニーン」は「海の巨獣」という意味だけでなく、「わに、へび、竜」を意味します(出7:12、申32:33は「蛇」)。詩篇74篇13~14節では「海の巨獣」は「レビヤタン」と同義です。「レビヤタン」はイスラエルの敵となった大国アッシリア、およびバビロン(イザヤ27:1)、エジプトを表すたとえとも言えます。

3. 「水にうごめく生き物」の創造 ②

(2) 「水に群がりうごめく生き物」

●これは「魚」を意味します。魚こそ水の中の生き物、水の中でうごめく生き物です。イエシュアの弟子たちのうち少なくとも4人(シモン、アンデレ、ヤコブとヨハネ)は漁師です。なにゆえにイエシュアの弟子たちが漁師だったのでしょうか。それは彼らが「**魚**」と関係していたからです。聖書で「魚」が出て来る箇所と言えば、以下の箇所です。

- ①ルカ5章1～11節 網が破れるほどの大漁。人をとる漁師。
- ②ヨハネ21章3～11節 153匹の大漁であった。
- ③マタイ13章47～49節 天の御国はあらゆる種類の魚を集める地引き網のようなもの。
- ④エゼキエル47章1～10節 死海は神殿から流れ出る水が入ると水が良くなり、非常に多くの魚が住むようになる。

●「水に群がりうごめく生き物」とは、**神に贖われた異邦の民**を象徴しています。

3. 「水にうごめく生き物」の創造 ③

●初代教会のクリスチャンたちは、信仰告白のシンボルマークとして、「魚」を意味する「イクスース」(ἰχθύς)にそれを隠しました。それぞれの文字には以下の内容の頭文字「イエシュア(Ἰησοῦς)・キリスト(Χριστός)・神(θεός)・子(υἱός)・救い主(σωτήρ)」が隠されていました。

「イクスース」(ἰχθύς)を
大文字表記にすると



●神の御子キリストを信じることによって、神の家族とされた異邦人の神の子どもたちを、聖書は「魚」にたとえていると考えられます。このことは、神によってしか創造し得ないことです。それゆえに、神の専有の語彙「バーラー」(בָּרָא)が使われているのです。

4. 「翼のあるすべての鳥」の創造 ①

(3) 「翼のあるすべての鳥」

● 「鳥」、しかも「翼のある鳥」が飛ぶように創造されています。翼のある鳥の王者は「鷲」です。その初出箇所は以下にあります。

【新改訳2017】出エジプト記19章4, 6 節

4 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。

6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』 ・ ・

● 「鷲の翼に乗せて」とは、イスラエルの民が祭司であるモーセとアロンの指導の下にエジプトから脱出し、シナイ山の麓までやって来たことを意味します。そしてイスラエルがエジプトから救われたのは、彼らが「祭司の王国」となるためでした。

4. 「翼のあるすべての鳥」の創造 ②

【新改訳2017】イザヤ書40章30～31節

30 若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。

31 しかし、【主】を待ち望む者は新しく力を得、鷺のように、
翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。

●イスラエルの民が「新しく力を得る」ことが、「翼を広げて上ること」にたとえられています。それは「王なる祭司」たちが神によって新しく創造される(バーラー)ことによってです。それが、創世記1章20節の「鳥は地の上、天の大空を飛べ」と言われている所以なのです。祭司たちが神によってみこころにかなった働きをなすとき、神の民は「新しく力を得、走っても力衰えず、歩いても疲れぬ」ということが起こるのです。すべての民族を祝福するという「王である祭司」の務めは、本来イスラエルの民に与えられている務めです。つまり、「鳥」は「イスラエルの残りの者」の象徴なのです。

4. 「翼のあるすべての鳥」の創造 ③

- 21節に「神はそれを良しと見られた」とあります。

21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。

- 神は、なにゆえに「それを良しと見られた」のでしょうか。そのことを確認しておきましょう。

5. 「神の祝福とその内訳」 ①

22 神はそれらを祝福して、
「生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上に増えよ」
と仰せられた。

23 夕があり、朝があつた。第五日。

●22節で初めて神の祝福と命令形が「**生めよ**」「**増えよ**」「**満ちよ**」として登場します。その命令は「**水の生き物**」と「**翼のある鳥**」に対して向けられています。この命令形は、神ご自身が自らのご計画を実現させるための「**預言的**命令****」と言えます。神が祝福するということは、神ご自身がそれを実現させることを表明していると同時に、神の命令を実現するための一切の恩寵が含まれていることを示しているのです。

●以下「**祝福の三つの命令**」を一つずつ見て行きましょう。

5. 「神の祝福とその内訳」 ②

(1) 「生めよ」 ・ ・ 「パーラー」 (פָּרָר)

● 「パーラー」は「多くの子が与えられる」こと、すなわち**数的増加**と同時に、「**実を結ぶ**」という**質的結実**を意味します。

① 【新改訳2017】 創世記48章3～4節

3 ヤコブはヨセフに言った。「全能の神はカナンの地ルズで私に現れ、私を祝福して、4 仰せられた。『見よ、わたしはあなたに**多くの子を与える**。あなたを増やし、あなたを多くの民の群れとし、この地をあなたの後の子孫に永遠の所有地として与える。』

② 【新改訳2017】 イザヤ書 11章1 節

エッサイの根株から新芽が生え、その根から若枝が出て**実を結ぶ**。

※ 「若枝」はメシアの象徴。メシアにつながることによって実を結ぶ。

③ 【新改訳2017】 ヨハネの福音書15章8節

あなたがたが**多くの実を結び**、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。

5. 「神の祝福とその内訳」 ③

(2) 「増えよ」 ・ ・ 「ラーヴァー」 (הַרְבֵּה)

●これは「パーラー」(הַרְבֵּה)と共に用いられることが多いです。「増えよ」と訳された「ラーヴァー」(הַרְבֵּה)は「**多くなる**」という意味です。と同時に単に量だけでなく、質的に「**大きく成長する、育てる**」という成熟をも意味します。つまり神がそのように育ててくださるという祝福です。

① 【新改訳2017】エゼキエル書16章7節

わたしはあなたを野原の新芽のように育て上げた。あなたは**成長して大きくなり**、十分に成熟して、乳房はふくらみ、髪も伸びた。しかし、あなたは丸裸であった。

② 【新改訳2017】エレミヤ書 23章3節

しかしわたしは、わたしの群れの残りの者を、わたしが追い散らしたすべての地から集め、元の牧場に帰らせる。彼らは多くの子を生んで**増える**。

5. 「神の祝福とその内訳」 ④

(3) 「満たせ」 ・ ・ 「マーレー」 (מָלַךְ)

● 「満たす」の「マーレー」も数的に満たすという意味ですが、より本質的な意味としては、神のご計画とみこころを「成し遂げる、完成する」という預言的な意味として理解すべきです。神が祝してくださるならば、神によって成し遂げられ、完成されるのです。

【新改訳2017】詩篇20篇4～5節

4 あなたの心の望みを 主がかなえてくださいますように。

あなたのすべての計画を **遂げさせてくださいますように。**

5 私たちは あなたの勝利を喜び歌い

私たちの神の御名により 旗を高く掲げます。

あなたの願いのすべてを 【主】が**遂げさせてくださいますように。**

6. 「祝福の力」 ①

●以上、神が祝福するのを見てきました。しかし多くの場合、仲介者による祝福となり、その表現も変わってきます。しかも命令形ではなく、「主があなたを祝福し・・されますように」という嘆願の形になります。「アロンの祝祷」がその例です。祝福の本質は何ら変わりません。アロンの祝祷は「**神のご計画の実現を指し示す預言的な祝福の祈り**」です。アロンの祝祷は神がモーセを通して与えたものでした。アロンが自分で考えて作ったものではありません。

【新改訳2017】民数記6章24～26節

24 【主】があなたを祝福し、あなたを守られますように。

25 【主】が御顔をあなたに照らし、
あなたを恵まれますように。

26 【主】が御顔をあなたに向け、
あなたに平安を与えられますように。

6. 「祝福の力」 ②

【新改訳2017】 民数記6章24～26節

- 24 **【主】** があなたを祝福し、あなたを守られますように。
- 25 **【主】** が御顔をあなたに照らし、
あなたを恵まれますように。
- 26 **【主】** が御顔をあなたに向け、
あなたに平安を与えられますように。

【新改訳2017】 ローマ人への手紙11章36節

すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。
この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

「神から発し」 「御父から発し」

「神によって成り」 . . 「御子によって成り」

「神に至るのです」 . . 「御霊に至るのです」

- 御霊には、三一の神の霊のすべてを含んでいます。

今回のまとめ

●今回は、「水に群がりうごめくすべての生き物」と「翼をもつすべての鳥」の創造、およびそれに対する神の祝福について学びました。そして「水に群がりうごめくすべての生き物」を「**神に贖われた諸国の民**」とし、また「翼をもつすべての鳥」を「**イスラエルの残りの者**」と解釈しました。勿論、神は魚も鳥も造られました。しかしそれだけでは表面的な解釈となってしまう、神のご計画は全く見えてきません。神は生物学的な魚や鳥にたとえながら、やがて神と人とが共に住む家を創造するという目的にそったご計画の骨子を、創世記1章で啓示しようとしているのです。

●また「神が祝福する」ということの重大さをも私たちは心に留めなければなりません。なぜなら、**神が祝福するということは、三一の神のすべてのものが与えられることと直結しているから**です。